

太陽光 発電シミュレーション

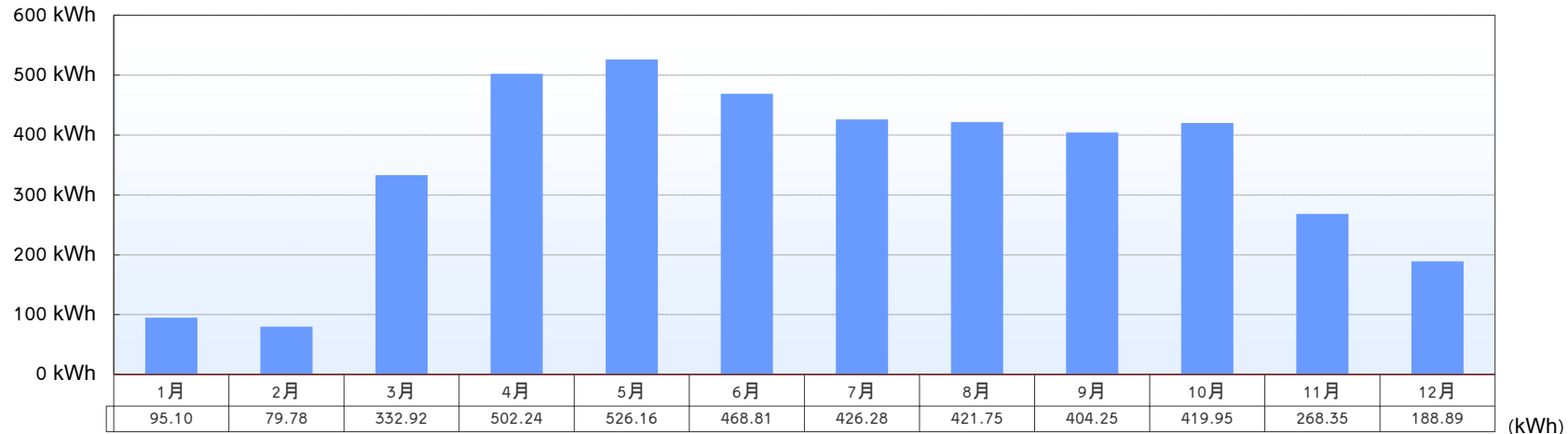
ソーラーラックAタイプ 太陽光発電システムのご提案

【設置情報】

最寄りの気象地点				モジュール			
都道府県	北海道(渡島)	緯度	41° 49.0'	名称	LX1A-275H	枚数	15枚
地名	函館	経度	140° 45.0'		LX1A-275H	枚数	枚
					LX1A-275H	枚数	枚
パワーコンディショナー				設置条件		システム容量	
名称	RLE-KP40K3	1 効率	95.0%	異直列有無	無	4.12 kW	
		効率		積雪考慮	有		
		効率					



◆ 月別予想発電量シミュレーション



年間発電量予測 **4,134 kWh**

注1 本シミュレーション結果は実際の設置時の発電量を保証するものではありません。あくまでも目安としてご利用ください。
 注2 システムの「太陽電池容量」は、JIS規格に基づいて算出された太陽電池モジュール出力の合計値です。
 (JIS標準試験条件: AM1.5, 日射強度1kW/m2, モジュール温度25℃)
 注3 実使用時の出力(発電電力)は、日射の強さ、設置条件(方位・角度・周辺環境)、地域差、及び温度条件により異なります。
 発電電力は最大でも次の損失により、太陽電池容量の70~80%程度になります。
 注4 月別平均日射量データは、NEDO(独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構) / (財)日本気象協会「日射関連データの作成・調査」によります。
 注5 発電量算定式: 月別発電量(kWh) = 太陽電池容量(kW) × 月平均傾斜日射量(kWh/m²・day) × その月の日数 × パワーコンディショナー変換効率 × (1 - 温度損失) × (1 - その他損失) × その他係数
 その他の損失: ・配線、受光面の汚れ、回路ロス等による損失、5% パワーコンディショナー効率値は機種の効率値を使用しています。
 太陽電池モジュールの温度損失はJPEAの自己ルールに基づいています。
 12~2月: 10%、4~5月: 6%、6~9月: 20%、10~11月: 15%
 屋根一体型は、この温度損失に加えJIS C 8907付属書3で用いられている係数を参考にした温度損失を考慮しています。
 その他係数については、注9以降を参照してください。
 注6 積雪時、モジュールが雪に埋まっていると、発電されない場合があります。
 注7 積雪考慮時の発電量の計算はNEDO/日本気象協会「全国日射量データマップ(MONSOLA11)」の「10cm積雪出現率」の値を利用しています。
 注8 諸条件(気象・立地・設置条件、影の影など)により、実際の発電電力は大きく変動する場合があります。
 注9 実際の建物に設置した場合には、傾斜角・方位角・緯度により発電量が異なります。
 注10 実際の建物に設置した場合には、システム回路構成及び構成機器種類により発電量が異なる場合があります。
 注11 単結晶モジュール使用による補正係数を+2%
 (財団法人 新エネルギー財団『太陽光発電モニター事業等に関する調査(平成20年3月)』より適用)としています。
 注12 モジュールの出荷時のポジティブトレランスを見込んでいます。
 注13 モジュールの低照度特性を考慮しています。
 注14 引き込み線の全長が4.0mを超えた場合、配線ロス等により、超過分1.0m当たり1%程度の発電量の低下に繋がる可能性があります。
 また、これら超過分のロスについて、各種シミュレーションには反映されません。

作成日	2015/3/10
株式会社 LIXIL	

